

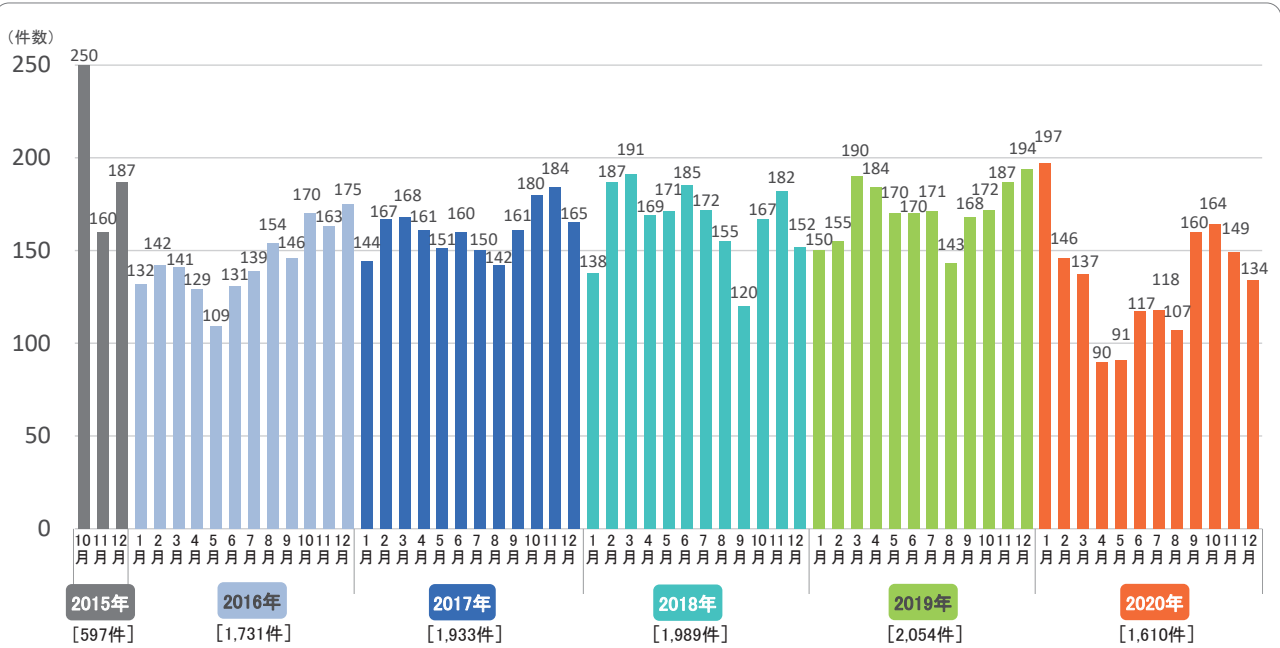
Ⅱ 相談・医療事故報告等の現況

要約版 (2020年)

本要約版は、集計結果の中から主要項目を抽出し、報告件数等について2020年1月1日～同年12月31日までの状況を、制度開始からの推移あるいは前年比等によりまとめている。一部のグラフは、2015年10月～12月のデータを省略している。

相談の状況

1. 相談件数の推移 (数値版 1-(1)-①参照)

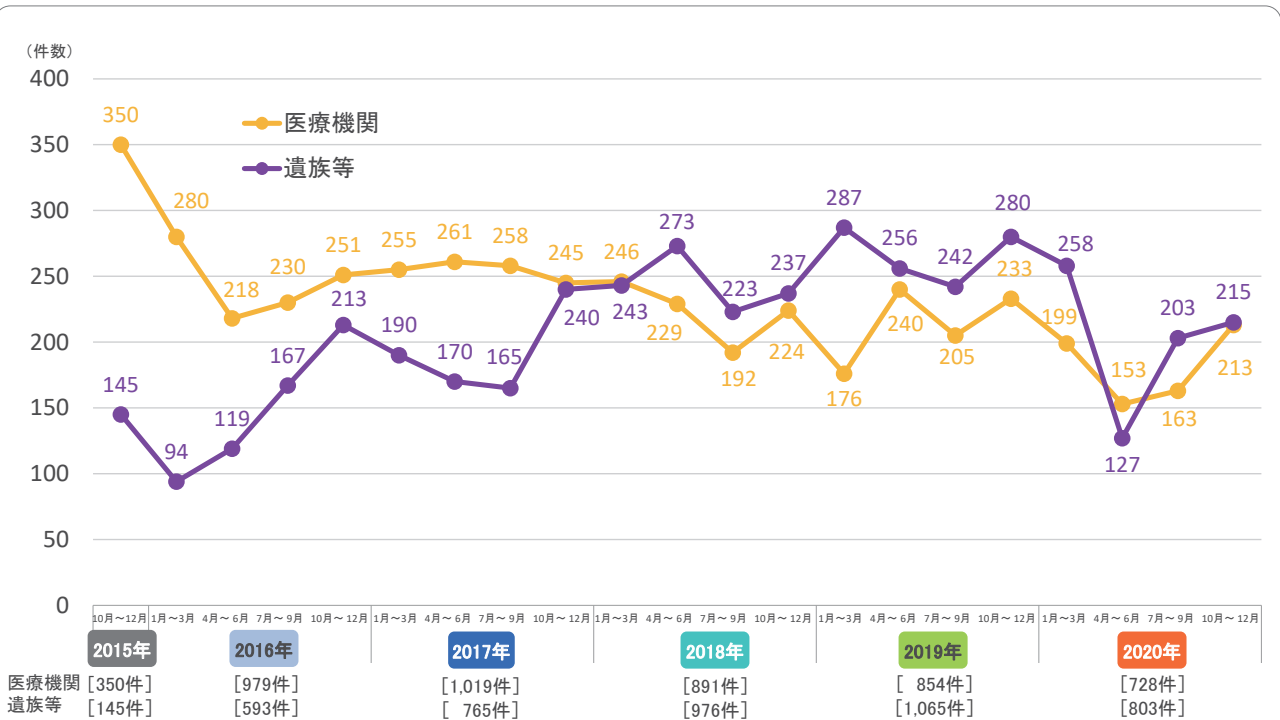


※相談手段の大半は電話であるが、それ以外に文書等が数件含まれる。

2020年の状況

相談件数は1,610件であり、90～190件台/月で推移していた。

2. 相談者別(「医療機関」と「遺族等」)相談件数の推移 (数値版 1-(1)-②参照)

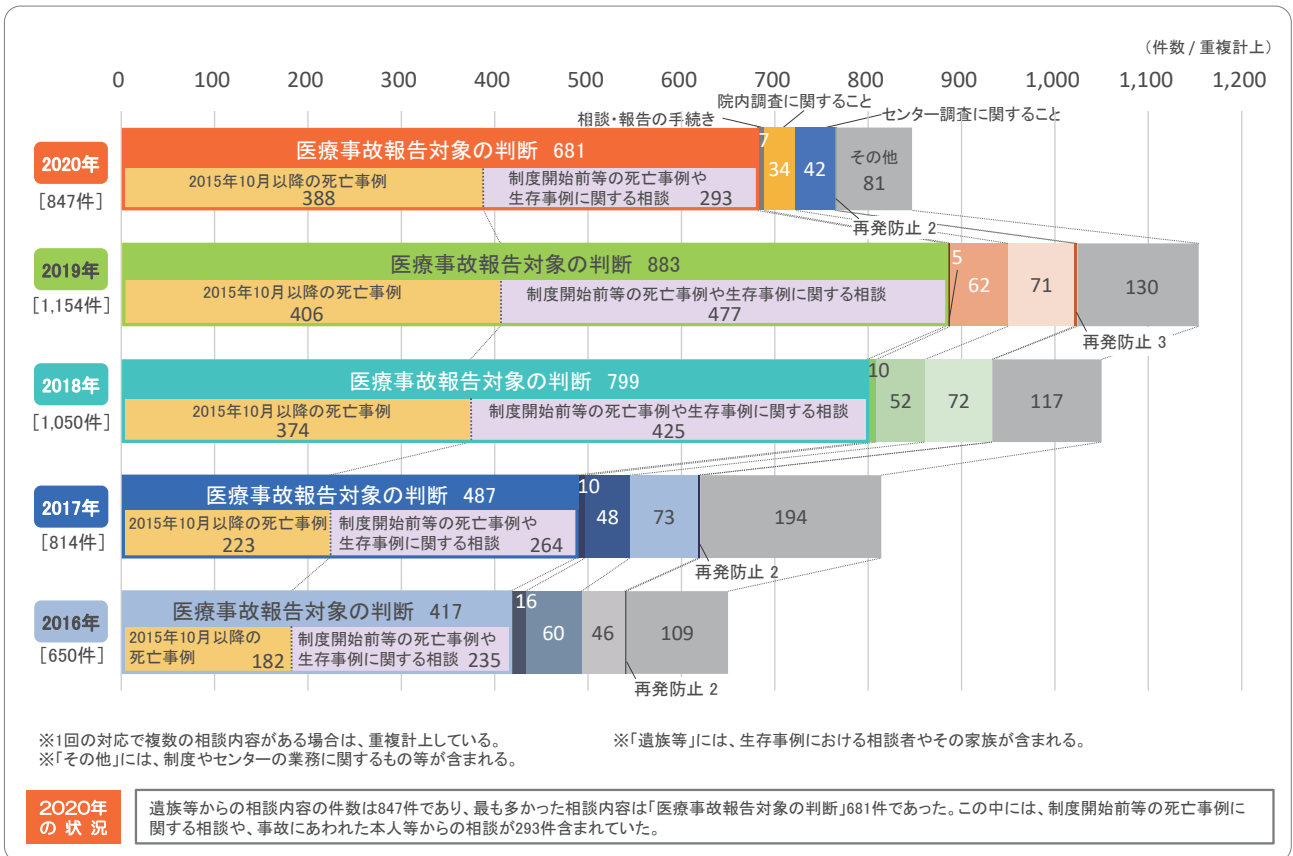


※相談者別(「医療機関」と「遺族等」)の相談件数を四半期ごとに表記している。
 ※「遺族等」には、生存事例における相談者やその家族が含まれる。

2020年の状況

医療機関からの相談は728件、遺族等からの相談は803件であった。

3. 遺族等の相談内容（数値版 1-(1)-④参照）



II 相談・医療事故報告等の現況
要約版

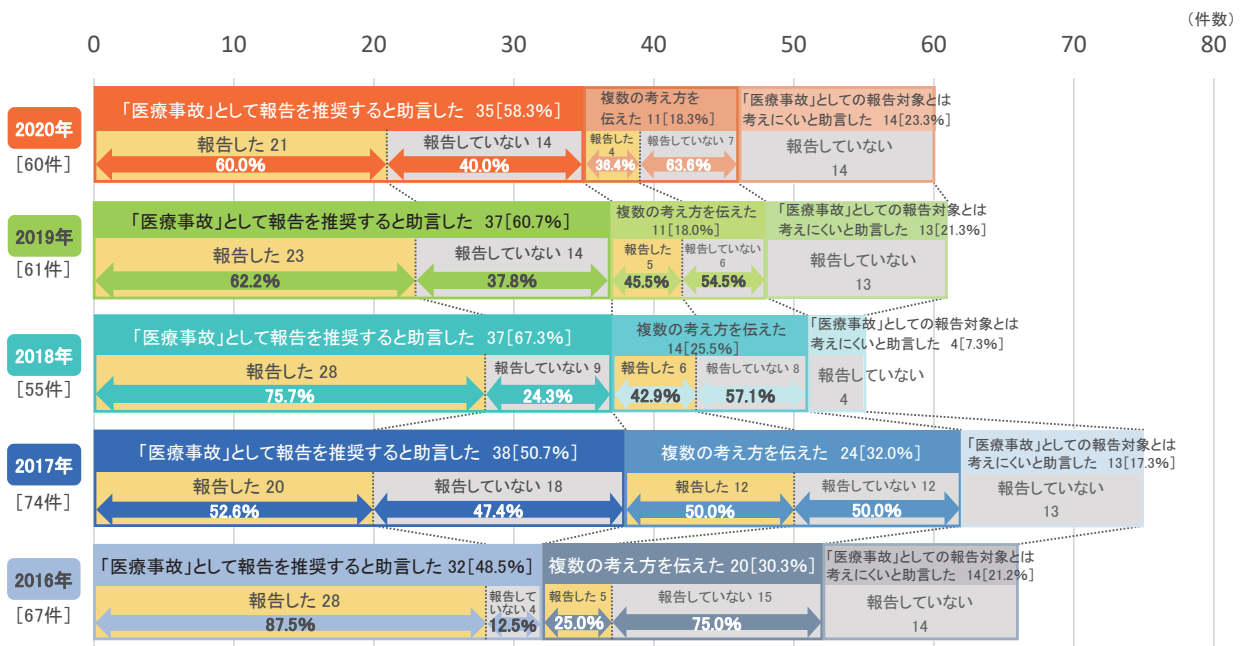
4. 遺族等からの求めに応じて医療機関へ伝達した件数（数値版 1-(1)-⑤参照）

医療機関	2020年 (1-12月)	2019年 (1-12月)	2018年 (1-12月)	2017年 (1-12月)	2016年 (7-12月)	累計
病院	23	24	38	19	12	116
診療所	0	1	1	2	2	6
助産所	0	0	0	0	0	0
合計	23	25	39	21	14	122

※医療機関への伝達は、厚生労働省医政局総務課長通知（平成28年6月24日医政総発0624第1号）「遺族等からの求めに応じて、相談の内容等を病院等の管理者に伝達すること」に基づく。

2020年の状況 遺族等からの求めに応じて医療機関へ伝達した件数は23件であった。

5. センター合議における助言内容および医療機関の判断(数値版 1-(2)-④参照)

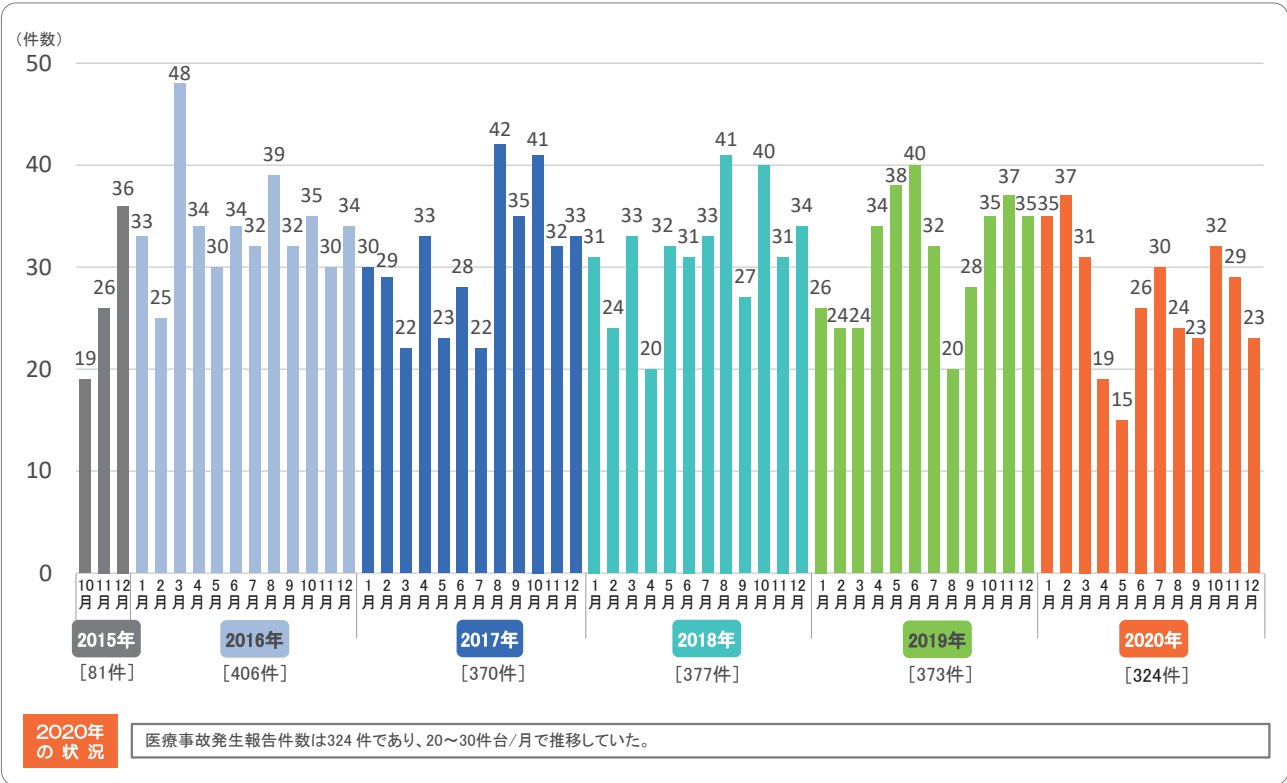


※「報告した」は、2020年12月末日時点までに医療事故発生の報告を受けた件数の再掲であり、「報告していない」には、一部、検討中のものを含む。
 ※「センター合議」とは、医療機関が行う「医療事故か否かの判断」に関する支援として、センターの複数の専門家らにより合議を行い、その結果を医療機関へ助言として伝えるものである。

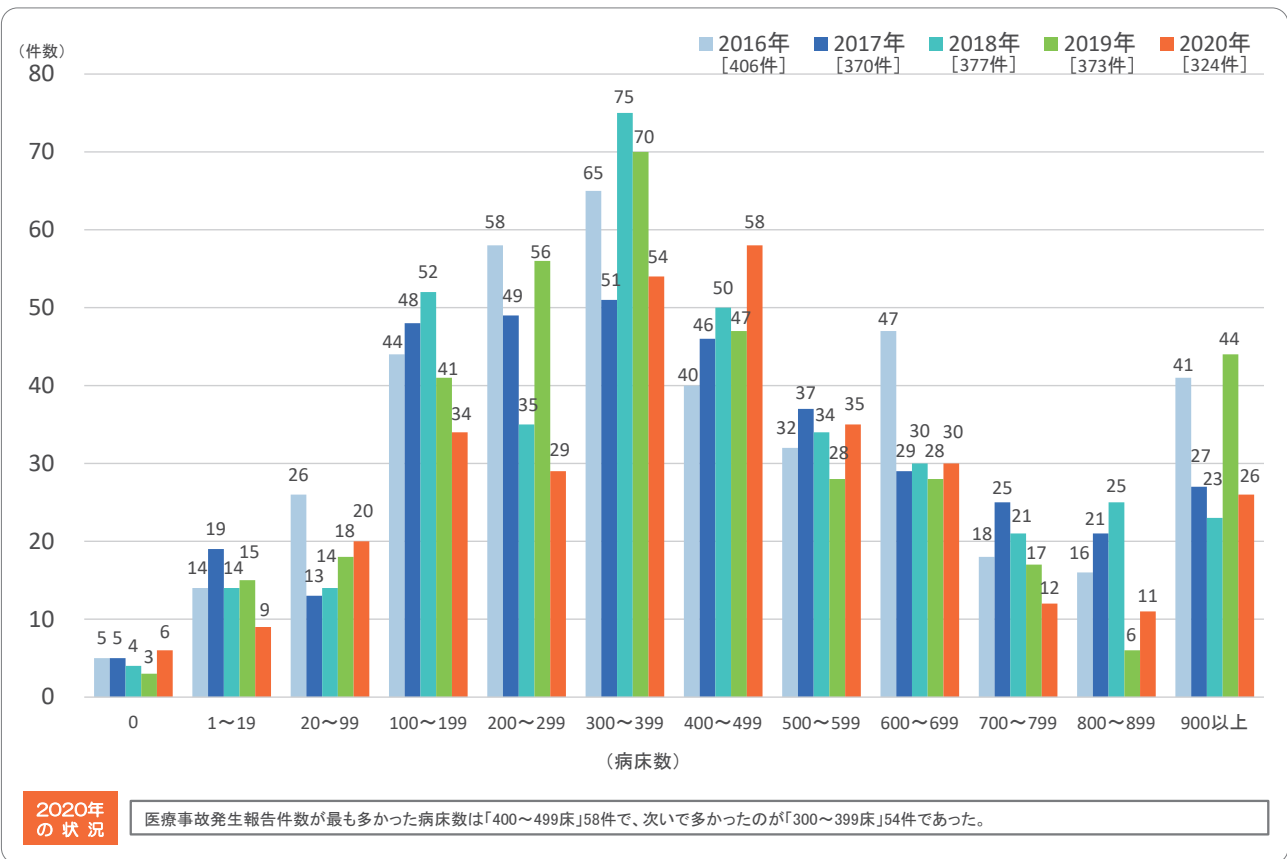
2020年の状況 センター合議は60件実施した。内訳は、「報告を推奨すると助言した」35件のうち、医療機関から医療事故報告されたものが21件であった。また、「複数の考え方を伝えた」11件のうち、報告されたものは4件であった。

医療事故発生報告の状況

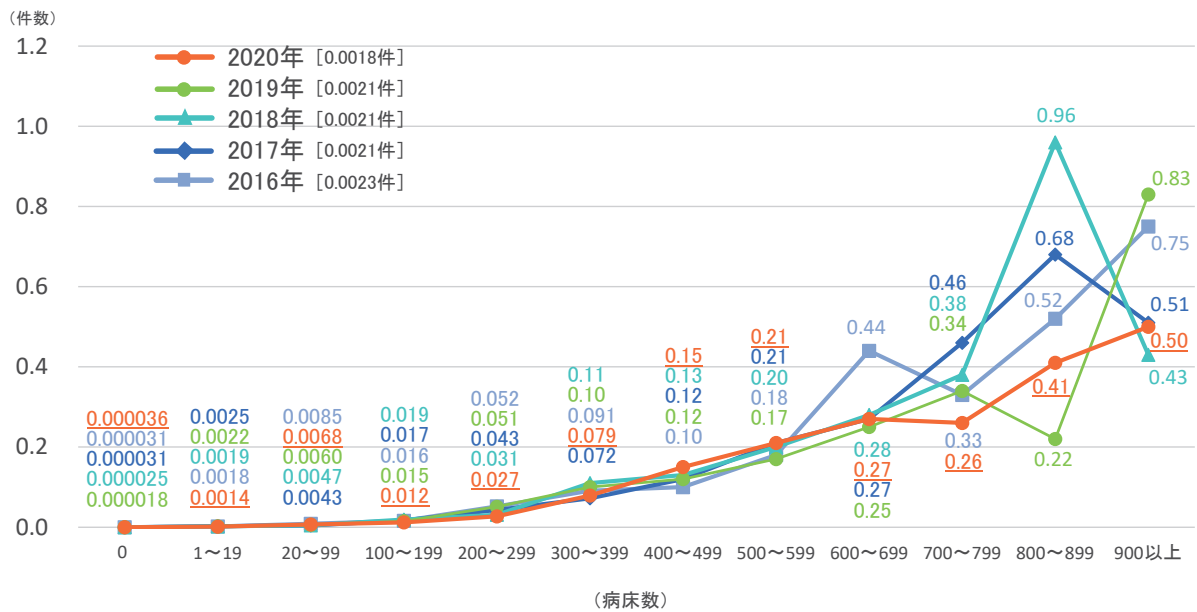
6. 医療事故発生報告件数の推移 (数値版 2-(1)-①参照)



7. 病床規模別医療事故発生報告件数 (数値版 2-(1)-⑤参照)



8. 病床規模別1施設あたりの医療事故発生報告件数 (数値版 2-(1)-⑤参照)

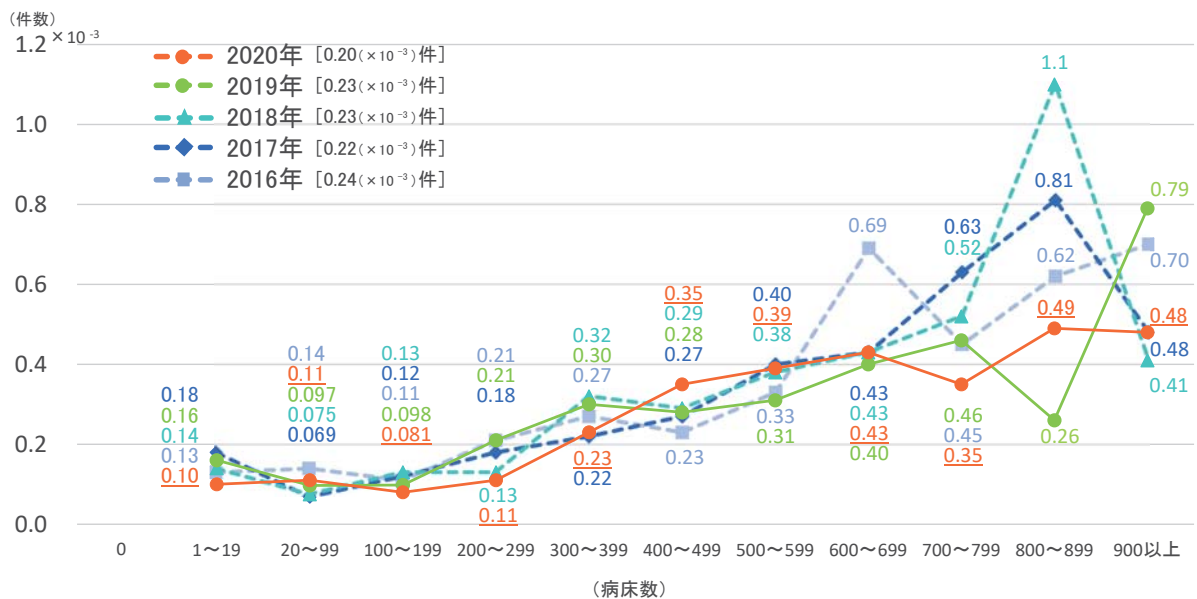


※「1施設あたりの報告件数」は、各年の1月～12月の報告件数/施設数として算出し、有効数字2桁で表示している。
 ※「施設数」は、2016年は「平成27年医療施設調査」、2017年は「平成28年医療施設調査」、2018年は「平成29年医療施設調査」、2019年は「平成30年医療施設調査」、2020年は「令和元年医療施設調査」(厚生労働省)に基づき算出している。

2020年の状況

1施設あたりの医療事故発生報告件数が最も多かったのは「900床以上」0.50件で、次いで多かったのが「800床～899床」0.41件であった。

9. 病床規模別1病床あたりの医療事故発生報告件数 (数値版 2-(1)-⑤参照)



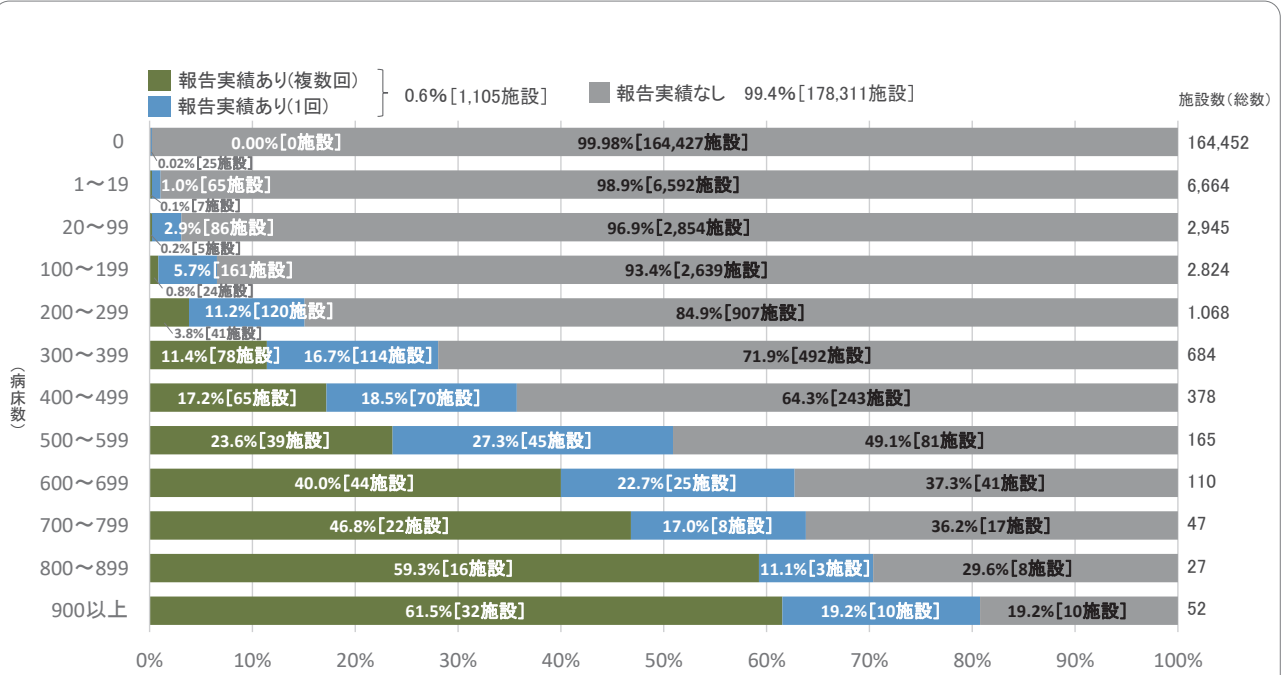
※「1病床あたりの報告件数」は、各年の1月～12月の報告件数/病床数として算出し、有効数字2桁で表示している。
 ※「病床数」は、2016年は「平成27年医療施設調査」、2017年は「平成28年医療施設調査」、2018年は「平成29年医療施設調査」、2019年は「平成30年医療施設調査」、2020年は「令和元年医療施設調査」(厚生労働省)に基づき算出している。
 ※病床数には、精神病床、感染症病床、結核病床、療養病床、一般病床、一般診療所の病床を含む。

2020年の状況

1病床あたりの医療事故発生報告件数が最も多かったのは「800～899床」0.49(×10⁻³)件で、次いで多かったのが「900床以上」0.48(×10⁻³)件であった。

II 相談・医療事故報告等の現況 要約版

10. 病床規模別医療事故発生報告実績の割合 (数値版 参考2-(1)-⑤参照)



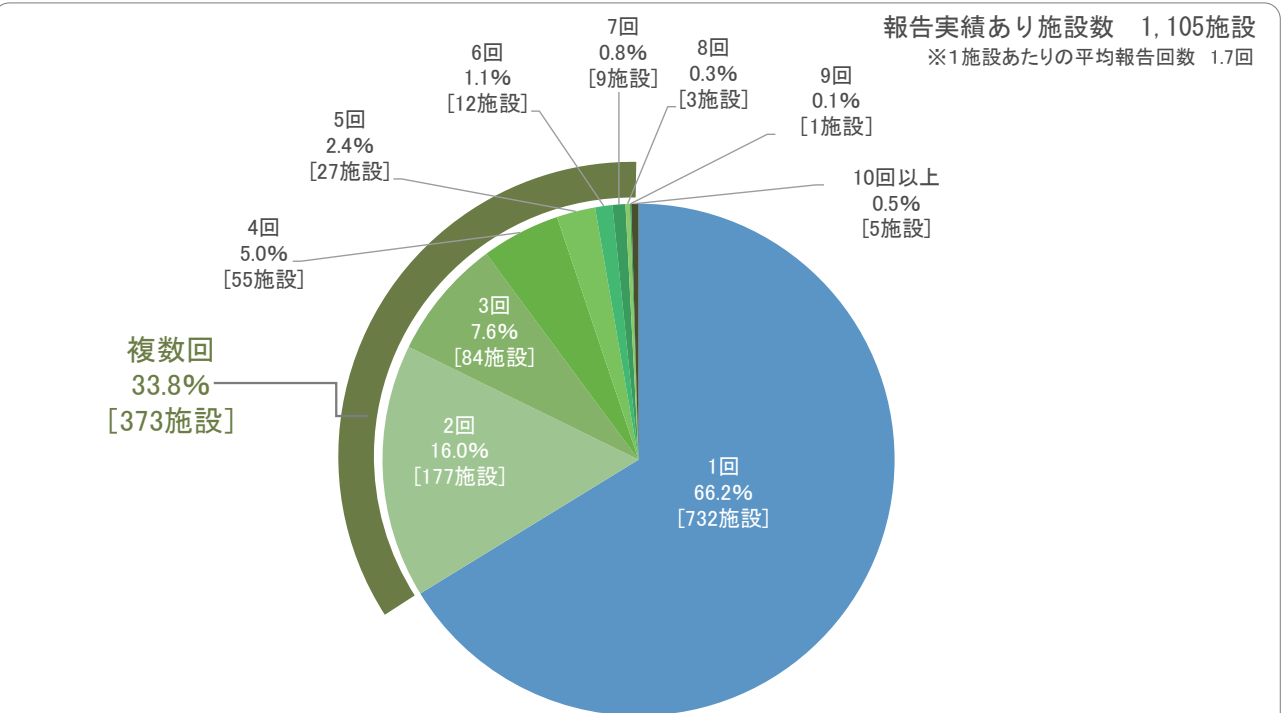
※この集計は、2015年10月～2020年12月末までの実績に基づき集計したものである。 ※報告実績あり(回数)は、1つの医療機関が医療事故発生報告をした回数を示している。
 ※施設数(総数)は、「令和元年医療施設調査」(厚生労働省)に基づき算出している。

制度開始からの状況

500床以上の施設では約50～80%の施設に報告実績があり複数回報告している割合が高く、約20～50%の施設では報告実績がない。

II 相談・医療事故報告等の現況
要約版

11. 医療事故発生報告施設における報告回数 (数値版 参考2-(1)-⑤参照)



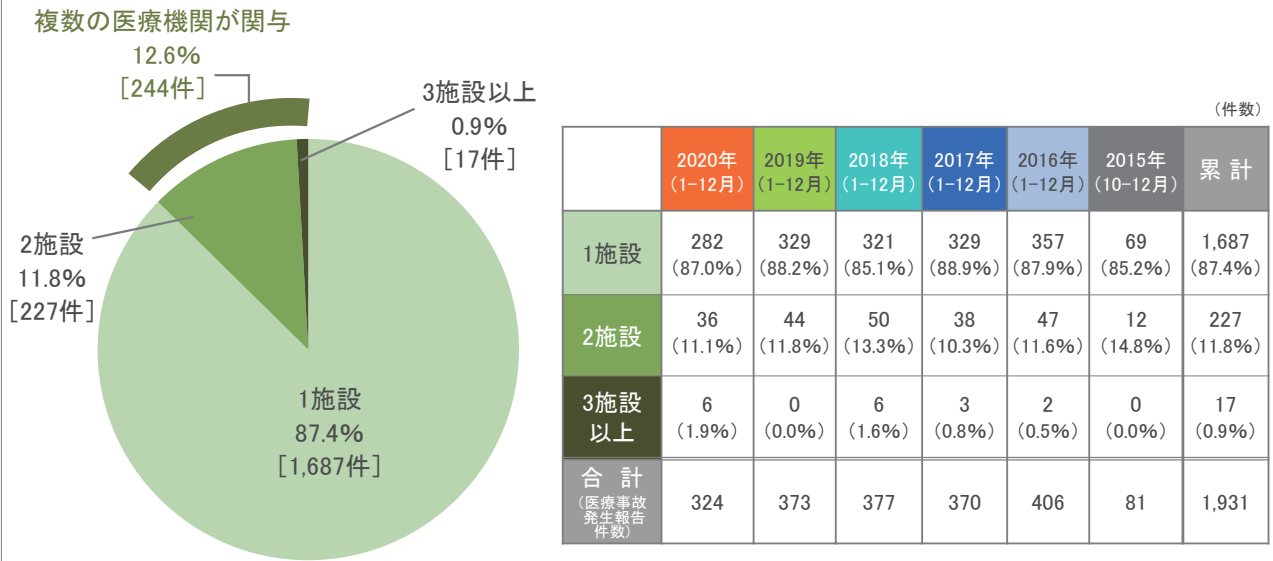
報告実績あり施設数 1,105施設
 ※1施設あたりの平均報告回数 1.7回

※この集計は、2015年10月～2020年12月末までの実績に基づき集計したものである。
 ※報告回数は、1つの医療機関が医療事故発生報告をした回数を示している。

制度開始からの状況

医療事故発生報告回数は「1回」が最も多く66.2% (732施設) であり、次いで「2回」が16.0% (177施設) であった。

12. 1事例に関与した医療機関数(数値版 2-(1)-⑥参照)

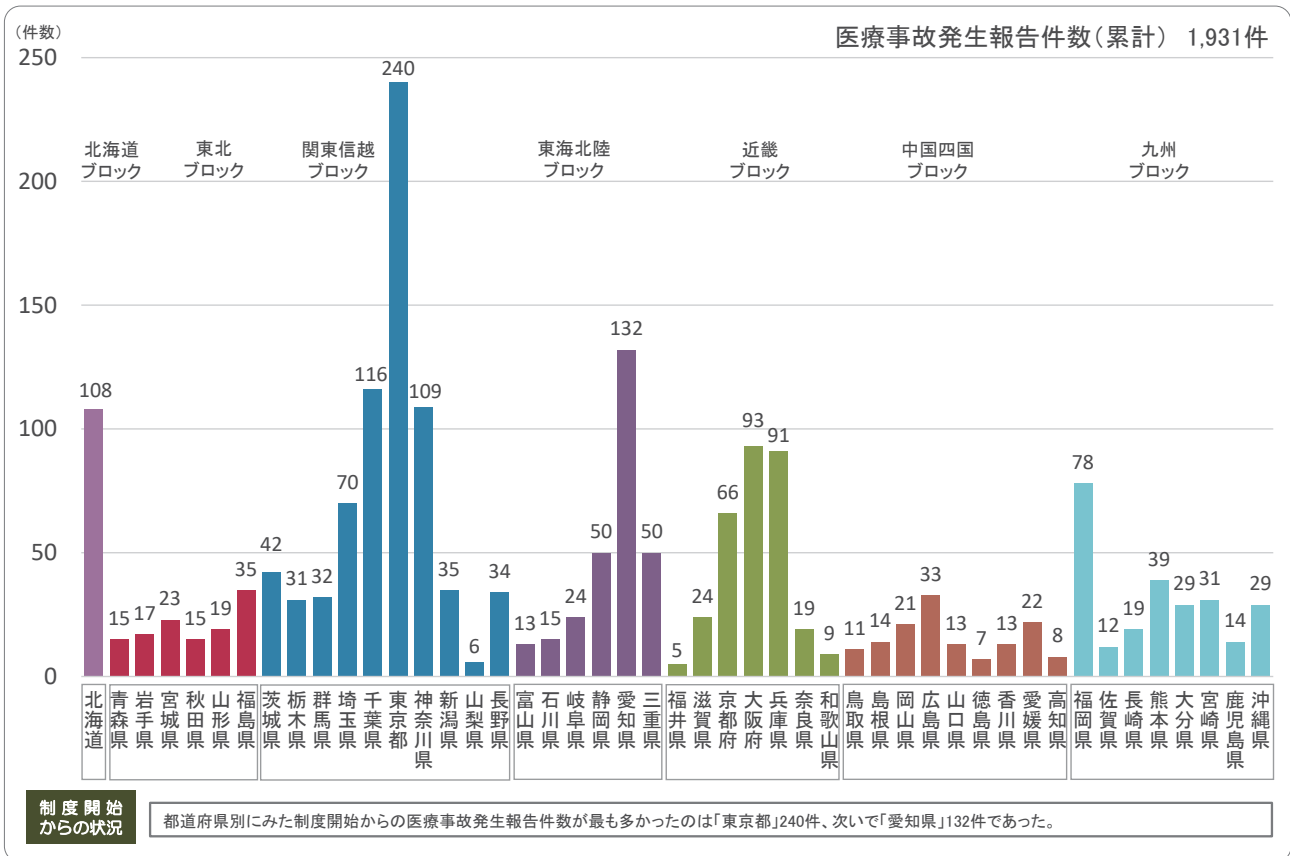


※この集計は、医療事故発生報告の情報に基づき、センターが分類、集計したものである。

制度開始
からの状況

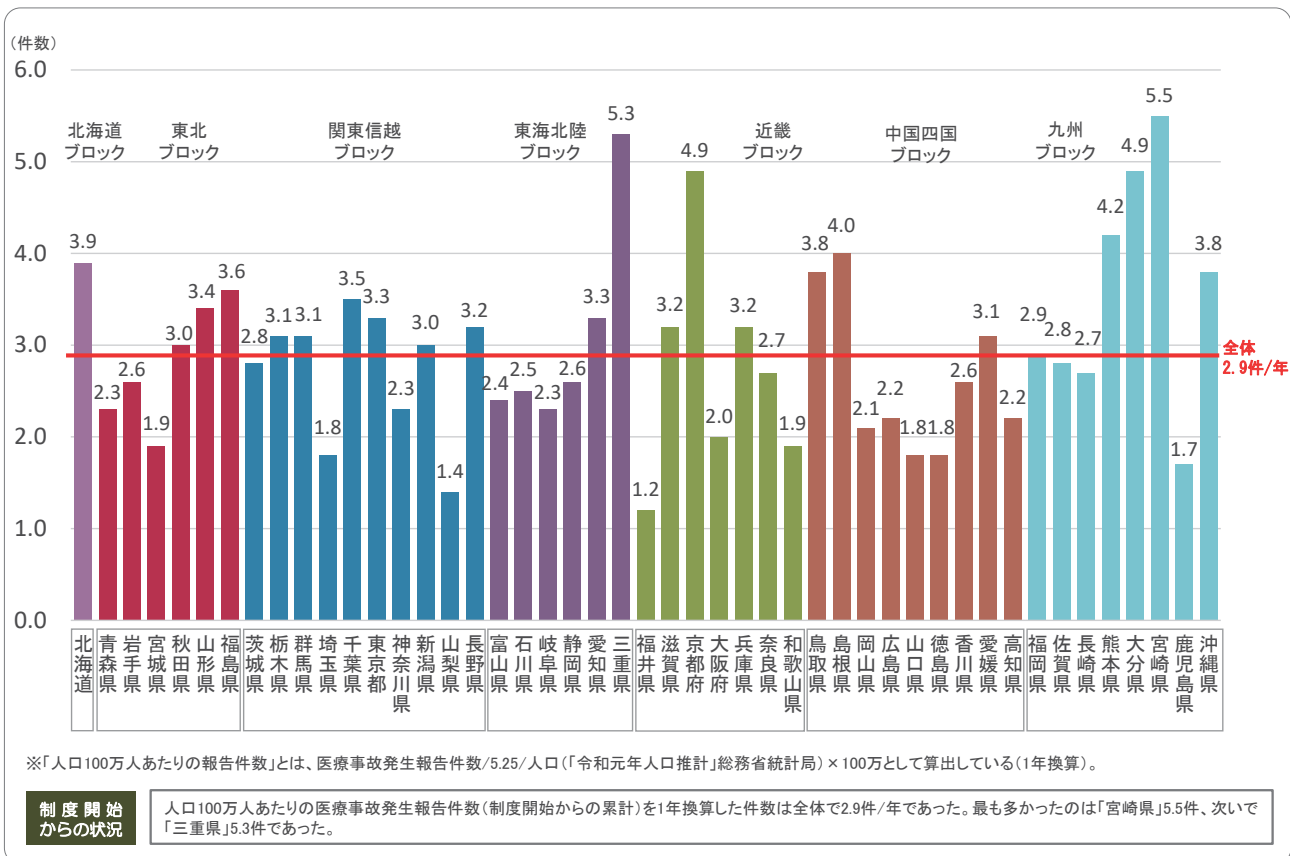
複数の医療機関が関与していた事例は244件(12.6%)あり、そのうち、2施設が227件、3施設以上が17件であった。

13. 都道府県別医療事故発生報告件数 (数値版 2-(1)-⑦参照)

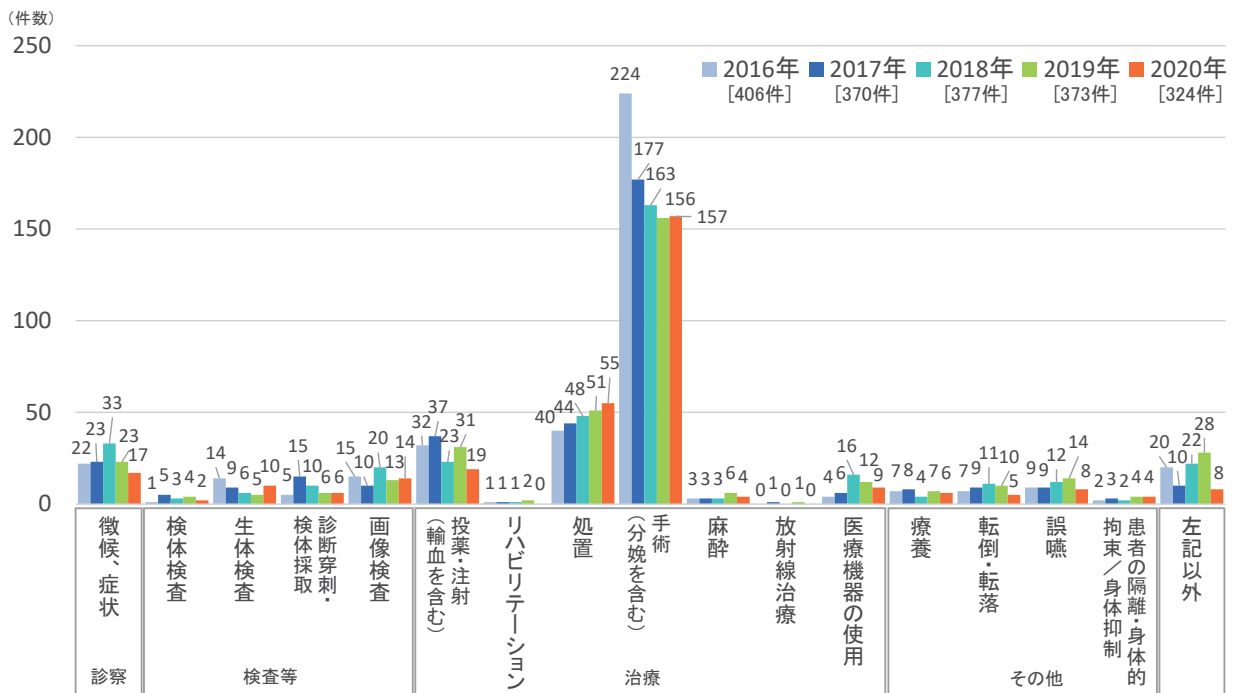


II 相談・医療事故報告等の現況
要約版

14. 都道府県別人口100万人あたりの医療事故発生報告件数[1年換算] (数値版 参考2-(1)-⑦参照)



15. 起因した医療(疑いを含む)の分類別医療事故発生報告件数 (数値版 2-(3)-①参照)

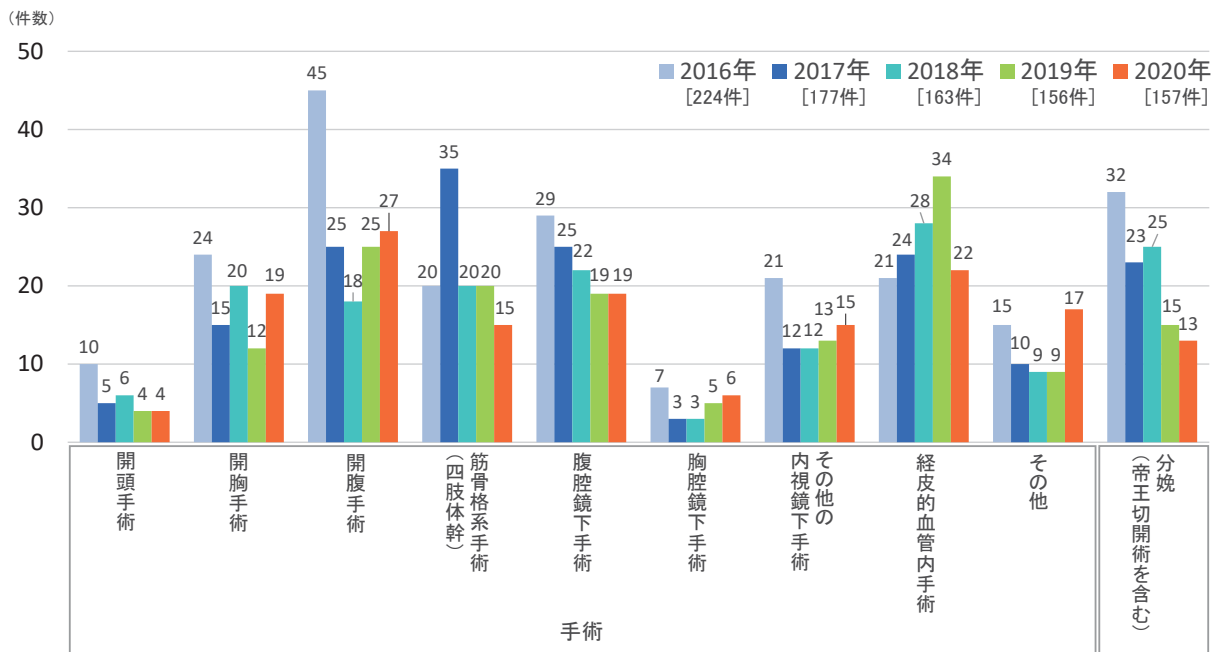


※「起因した医療の分類」は、厚生労働省医政局長通知(平成27年5月8日医政発0508第1号)の別添「医療に起因する(疑いを含む)死亡又は死産の考え方」に基づき、2016年～2017年は医療事故発生報告の内容をセンターが分類、集計したものであるが、2018年1月以降は医療機関から報告された分類に基づき集計している。
 ※「左記以外」には、院内感染、突然の心肺停止状態での発見等が含まれ、分類困難だったものである。

2020年の状況

起因した医療(疑いを含む)別に分類した医療事故発生報告件数は、「手術(分娩を含む)」が最も多く157件であり、次いで多かったのは「処置」55件であった。

16. 「手術(分娩を含む)」の内訳 (数値版 2-(3)-②参照)



※この集計は、「15.起因した医療(疑いを含む)の分類別医療事故発生報告件数」に記載した「治療」のうち、「手術(分娩を含む)」の内訳である。
 ※手術は、「平成26年患者調査」(厚生労働省)の「病院退院票」における手術名に基づく分類である。
 ※「その他」には、気管切開術、ペースメーカー植込み術、口腔外科手術、ラジオ波焼灼術等が含まれる。

2020年の状況

「手術(分娩を含む)」の内訳で、医療事故発生報告件数が最も多かったのは「開腹手術」27件であり、次いで多かったのは「経皮的血管内手術」22件であった。